

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と今後の指導について（詳細版）

小豆島町教育委員会

1 調査の概要

（1）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2）調査の対象（悉皆調査）

- ① 小学校調査 小学校第6学年
- ② 中学校調査 中学校第3学年

（3）調査事項

- ① 教科に関する調査 小学校〔国語、算数〕 中学校〔国語、数学、英語〕

【出題内容】

- ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- イ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

【調査問題】

- ・上記アとイを一体的に問う。
- ・記述式の問題を一定割合で導入する。
- ・中学校英語「話すこと」は原則として口述式とする。

② 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

（4）調査実施日 令和5年4月18日（火）【共通】 4月28日（金）【中学校英語「話すこと」】

（5）調査を実施した児童生徒数

- ① 小学校調査 4校 81人
- ② 中学校調査 1校 91人 中学校英語「話すこと」75人

（6）結果の公表と活用についての方針

- ① 小豆島町教育委員会では、調査結果を分析し、本町の児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげていく。調査により測定できるのは、学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることを踏まえ、序列化や過度な競争が生じないよう数値による結果の公表は行わず、全体的な傾向を文章でまとめ、公表する。
- ② 小豆島町教育委員会は、分析結果を今後の教育施策・事業等に反映していく。

2 小豆島町の児童生徒の調査結果の概況

- ※ 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント以上の場合・・・「上回った」「下回った」
- ※ 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント未満の場合・・・「ほぼ同じ」
- ※ 全国（公立）の平均正答率と同じ場合・・・・・・「同じ」

（1）教科に関する調査の全体的な状況

① 小学校

- 国語・・・・・・全国（公立）の平均正答率を下回った。
- 算数・・・・・・全国（公立）の平均正答率を上回った。

② 中学校

- 国語・・・・・・・・・・ 全国（公立）の平均正答率を下回った。
- 数学・・・・・・・・・・ 全国（公立）の平均正答率と同じ。
- 英語、英語「話すこと」・・・全国（公立）の平均正答率を下回った。

（２）学力・学習状況の傾向と今後の指導で大切にしたいこと

① 小学校

ア 国語（１４問）

出題問題について

学習指導要領の領域等 と結果	出題の趣旨
話すこと・聞くこと 全国（公立）を上回った	☐ 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる。 ☐ 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
書くこと 全国（公立）を上回った	☐ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。
読むこと 全国（公立）を下回った	■ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる。 ■ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。 ■ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
言葉の特徴や使い方に関する事項 全国（公立）を下回った	■ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。 ■ 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。
情報の扱い方に関する事項 全国（公立）と同じ	☐ 原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。 ■ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。

※ 表中の□印は良好な内容を、■は課題と考えられる内容を示しています。

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
話すこと・聞くこと	・話し手の考えや伝えたい内容を正しく聞き取るためには、必要なことを記録したり質問したりしながら聞くことが重要である。その際、話し合いのやりとり全体を踏まえた上で、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもてるようにする。
書くこと	・低学年の段階から、相手意識や目的意識をもち、伝えたい思いを大切にしたい書く活動を設定する。そして、書いたものを児童同士で読み合ったり、伝える相手へ実際に伝えたりする。さらに、相手にどのように伝わったかを確かめ、書くことへの充実感がもてるような学習を行う。

読むこと	・文章から伝わってきたことを自分の言葉でまとめる経験を低学年から継続して行わせ、内容や感想、考えたことを自分なりに表現できるようにする活動を取り入れる。
言葉の特徴や使い方に関する事項	・5年生までに習った漢字についても、ドリル等を活用して繰り返し練習したり、読書活動を充実させたりして、日常生活の中で漢字に触れる機会を増やし、正しく書くことができるようにする。
情報の扱い方に関する事項	・複数の情報を集め、自分の考えを伝えるために情報を整理する活動を取り入れる。その際、ICTを活用したり、ノートの記事方に工夫を加えたりして、視覚化することの良さに気づかせる。

イ 算数（16問）

出題問題について

学習指導要領の領域等と結果	出題の趣旨
数と計算 全国（公立）を上回った	☐ 一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる。 ☐ （ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる。 ☐ 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる。 ☐ 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる。 ■ （2位数）÷（1位数）の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる。
図形 全国（公立）を上回った	☐ 台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。 ☐ 正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。 ☐ 正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。 ■ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。
変化と関係 全国（公立）を上回った	☐ 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる。 ☐ 伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる。 ■ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。 ☐ 百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる。
データの活用 全国（公立）を上回った	☐ 「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる。 ☐ 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。 ■ 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる。

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
数と計算	・日常生活の場面を式に表したり、式を場面と関連付けて読み取ったりする活動を意図的に設定する。また、問題場面の数量の関係に着目したり、計算結果を振り返ったりさせることで、計算の性質に気付かせ、計算の仕方を捉えなおす機会になるようにする。
図形	・面積が等しく、形が異なる2つの三角形の面積について、実際に計算で面積を求め、底辺と高さが等しければ、面積も等しくなることを理解させる。また、このような三角形を実際に作成・比較することで実感を伴った理解ができるようにする。
変化と関係	・伴って変わる二つの数量の関係について、変化の特徴を考察して規則性を見付けるような活動を取り入れる。さらに、見付けた規則性を言語化したり、その規則性を基にして、知りたい数量の大きさを求めるような練習を繰り返し行ったりする。
データの活用	・興味・関心や問題意識に基づき、問題を設定し、目的に応じてデータを収集し、表やグラフに表したり読んだりする活動を行う。また、データの特徴や傾向を捉え、結論を導いたり、結論について考察したりする時間を適宜設定する。

中学校

ア 国語（15問）

出題問題について

学習指導要領の領域等 と結果	出題の趣旨
話すこと・聞くこと 全国（公立）を下回った	■話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる。 ■聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
書くこと 全国（公立）を下回った	■読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。 ■自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。
読むこと 全国（公立）を下回った	■観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる。 ■文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる。 ■文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる。 ■文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。
言葉の特徴や使い方に関する事項 全国（公立）を下回った	■事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる。 ■文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。
情報の扱い方に関する事項 全国（公立）を下回った	■意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。 ■具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

我が国の言語文化に関する事項	■文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる。 ■歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる。 ■古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる。
全国（公立）を下回った	

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
話すこと・聞くこと	・日頃から相手意識や目的意識をもたせて文章を書く活動を取り入れ、相互評価する。評価されたことを基に、自分の文章を推敲する時間を設定する。
書くこと	・目的意識、相手意識、どのような意図をもって表現するのかを具体的に考えることができる言語活動を取り入れる。その上で、実際に自分が書いた文章を読み返し、伝えようとする事実や事柄、意見等が十分に表されているか推敲する時間を設定する。
読むこと	・古典作品を授業で扱う際には、生徒の興味・関心が高まるような課題を設定する。また、扱う古典作品に関連する本や文章だけでなく、音声や漫画等で表現されている作品を活用するなど、指導内容や生徒の実態に応じて教材を選ぶといった工夫をする。
言葉の特徴や使い方に関する事項	・中学2年生までに習った漢字についても、ドリル等を活用して繰り返し練習したり、読書活動を充実させたりして、日常生活の中で漢字に触れる機会を増やし、正しく書くことができるようにする。
情報の扱い方に関する事項	・情報収集の際、目的をもって相手に質問して必要な情報を得るために、事前に聞きたいことを整理するなどして、知りたいことを明確にして臨むようにする。また、必要に応じて相手に確認したり、足りない情報を聞き出したりするように指導する。
我が国の言語文化に関する事項	・古典の文章の内容を概括したり、古典の文章に関する様々な事柄に触れたりする際には、分かりやすい現代語訳や古典について解説した文章などを教材に加えるなど、指導する内容や生徒の実態に応じて教材を工夫する。

イ 数学（15問）

出題問題について

学習指導要領の領域等と結果	出題の趣旨
数と式	□自然数の意味を理解しているかどうかをみる。 □数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる。 ■問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる。 ■目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。 ■結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる。
図形	□空間における平面が同一直線上にない3点で決定されているかどうかをみる。 ■ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる。 ■条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる。
全国（公立）を下回った	

関数 全国（公立）と同じ	☐ 反比例の意味を理解しているかどうかをみる。 ☒ 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる。 ☒ 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる。
データの活用 全国（公立）を下回った	☐ 累積度数の意味を理解しているかどうかをみる。 ☒ 四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる。 ☒ 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
数と式	・数に関する事象を考察する時、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明できるようにする。
図形	・図形の性質を考察する時、成り立つと予想した事柄について、論理的に考察し、それを数学的に表現することができるようにする。 ・問題解決の過程を振り返って、本質的な条件を見いだすことができるようにする。
関数	・日常生活や社会の事象を考察する際、事象を理想化したり単純化したりして、その特徴を捉えられるような作業を行う。さらに、その事象を数学的に解釈できるように交流活動を取り入れる。 ・問題を解いて終わるのではなく、解決方法を順を追って考え、それを数学的な言葉を使って説明する機会を設ける。
データの活用	・複数の集団のデータ分布に着目し、その傾向を比較して読み取り、読み取れた事柄を説明し伝え合う活動を通して、箱ひげ図の必要性和意味を理解できるようにする。

ウ 英語（１７問）

出題問題について

学習指導要領の領域等 と結果	出題の趣旨
聞くこと 全国（公立）を下回った	☒ 情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる。 ☒ 日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる。 ☐ 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる。 ☒ 社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる。
読むこと 全国（公立）を下回った	☒ 情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる。 ☒ 「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる。 ☒ 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。 ☒ 文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる。 ☒ 日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる。 ☒ 社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる。

書くこと 全国（公立）を下回った	■社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。 ■未来表現（be going to）の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる。 ■疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる。 ■「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる。 ■日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。
話すこと【やりとり】 全国（公立）を下回った	■日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。 ■未来表現（be going to）を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。 ■疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。 ■日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合うことができるかどうかをみる。
話すこと【発表】 全国（公立）を上回った	□社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる。

今後の指導で大切にしたいこと

学習指導要領の領域等	授業改善の視点
聞くこと	・日頃から授業で、生徒に必要な情報を聞き取らせるように、教師が意図的に説明や指示を英語で行い、生徒が自分に必要な情報が何であるのか判断した上で、正確に聞き取ることができるかどうかを確認する。 ・正確に聞き取る力を養うために、公共施設のアナウンスや天気予報等のメッセージなどから、必要な情報を聞き取る活動という言語活動を取り入れる。
読むこと	・できるだけ現実に近い場面、例えば文化祭の日程や電子メールなど、複数の情報が含まれる文章から、自分の置かれた状況において自分に必要な情報が何であるのか判断した上で、必要な情報を読み取る言語活動を設定する。
書くこと	・「導入—本論—結論」や「主張—根拠や具体—主題の言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら、全体として一貫性のある文章が書けるように指導する。 ・出来事や事実を描写したり、考えや感想を
話すこと【やりとり】 【発表】	・ICTを活用して、自分が発声した文章を聞き直したり、友達とやり取りした後に相互評価したりする活動を設定する。 ・意図的に条件をつけた場面を設定し、それに対応する会話を生徒同士にさせることで、様々な文章を話す機会を与える。また、その内容をALTや教師が評価することで、より正確に話すことができるようにする。

(3) 無回答率

状況

小学校では算数の2問で無回答率が全国（公立）を下回った（無回答が少ない）。中学校では国語、数学、英語で無回答率が全国（公立）を下回る問題数が1問だけだった（無回答が非常に多い）。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・長文の問題が多くなっているため、問題を読み解く力が必要になる。国語科において読む力を身に付けるとともに、各教科においても長文の問題を解く機会を増やしていく。
- ・中学校においては、授業の中で解けない問題についてもいろいろな方法を試しながら粘り強く挑戦する場面を設ける。ただし、解答に時間がかかり過ぎていないか時間配分についても留意し、決められた時間内で解答していく経験も積んでいく。
- ・日頃からわかる授業を心がけるとともに、テスト等に臨む際、すべての問題にチャレンジするという習慣を身に付けさせる。また、時間いっぱいまで粘り強く問題と向き合うという気持ちも育てていく。
- ・記述式問題において、無回答率が高くなっている。授業において問題解決に必要な情報を整理・共有する場面を設定したり、みんなで説明を練り上げていく活動を取り入れたりするなど、自分の考えを整理し、根拠を示しながら筋道を立てて説明することができるよう指導を工夫する。

(4) 質問紙調査 ※小豆島町の課題としている項目

小豆島町の課題項目について、全国（公立）平均より上回る項目が増えている。通常の学校生活に戻った中で、「今後の指導で大切にしたいこと」を踏まえて実践し、改善に向けて尽力していくことが必要である。

① 児童生徒質問紙調査（肯定的回答の割合）

ア 自尊意識について

状況

＜自尊意識にかかわる質問項目についての肯定的回答＞

- ・【質問4】自分には、よいところがあると思いますか。
全国（公立）平均を小学校では下回り、中学校では上回った。
- ・【質問5】先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
全国（公立）平均を小学校では下回り、中学校では上回った。
- ・【質問7】将来の夢や目標を持っていますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・児童生徒が自己発揮できる場を多様に設定するとともに、教師は個人の伸びを見逃さずに認め、プラスの声かけをしていくよう心がけていく。
- ・互いのよさを認め、励まし合える仲間づくりを行っていく。
- ・キャリア教育を推進し、将来への夢や今後の目標を自らもてるようにしたり、自尊感情や自己肯定感、自己有用感を高めたりしていく。

イ 規範意識等について

状況

＜規範意識にかかわる質問項目についての肯定的回答＞

- ・【質問 8】人が困っているときは、進んで助けていますか。
全国（公立）平均と小学校・中学校ともに**ほぼ同じ**であった。
- ・【質問 9】いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
全国（公立）平均を小学校では**上回り**、中学校では**下回った**。
- ・【質問 11】人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに**下回った**。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・生活科や総合的な学習等で、人とのかかわりを大切にし、積極的に体験的な学習を取り入れる。
- ・いじめを仕方がないとする意見について、その背景をみんなで考え、どのような理由があろうといじめは許されないものであることが理解できるようにする。
- ・自己決定の場を大切にし、児童会や生徒会、学級会などにおいて、自分たちで話し合い、決定していく経験を積む。また、教師はPDCAサイクルを重視し、児童生徒の実態に即した学校教育活動を行う。

ウ コミュニケーション能力について

状況

＜コミュニケーション能力にかかわる質問項目についての肯定的な回答＞

- ・【質問 13】自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
全国（公立）平均と小学校は**ほぼ同じ**、中学校では**下回った**。
- ・【質問 18】友達と協力するのは楽しいと思いますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに**下回った**。
- ・【質問 小 32、中 36】5年生（1・2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに**下回った**。
- ・【質問 小 36、中 40】学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。
全国（公立）平均を小学校では**下回り**、中学校は**ほぼ同じ**だった。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・児童生徒による主体的な学習を目指し、自分の考えを表現する場、ペア・グループによる交流の場を十分に確保し、自分の考えを広げたり深めたりする経験を積むことによって、交流のよさを感じられるようにする。
- ・様々な教科の中で言語活動を充実させ、対話を通じて合意形成・課題解決する力を身に付ける。
- ・安心して自分の考えを伝え合うことができる学級づくりを行う。

エ 学習に関する関心・意欲について

状況

＜学習の関心・意欲にかかわる質問項目についての肯定的な回答＞

- ・【質問 小 43、中 47】国語の勉強は好きですか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 小 44、中 48】国語の勉強は大切だと思いますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 小 45、中 49】国語の授業の内容はよく分かりますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 小 46、中 50】国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 小 51、中 55】算数・数学の勉強は好きですか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。
- ・【質問 小 52、中 56】算数・数学の勉強は大切だと思いますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。
- ・【質問 小 53、中 57】算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。
全国（公立）平均と小学校はほぼ同じ、中学校では上回った。
- ・【質問 小 54、中 58】算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。
- ・【質問 小 55、中 59】英語の勉強は好きですか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 小 56、中 60】英語の勉強は大切だと思いますか。
全国（公立）平均を小学校では上回り、中学校では下回った。
- ・【質問 61】英語の授業の内容はよく分かりますか。
全国（公立）平均を中学校では下回った。
- ・【質問 62】英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
全国（公立）平均を中学校では下回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・教科への興味・関心を高めるために、自分で考え取り組むことができる学習者主体の授業づくりを行っていく。
- ・考えを深めたり広げたりするために、児童生徒の発言や活動の時間を十分に確保する。話し合う活動においては、話し合いの目的を明確にし、適切なタイミングや相手を設定する。
- ・授業においては課題解決の時間を確保し、「できる」ことによって達成感や満足感を味わえるようにする。
- ・自分の学びが自覚できるように、振り返りの場を設定し、児童生徒が自分の伸びに気づいたり、

- 次時の見通しをもって学習に取り組んだりすることができるようにする。
- ・興味・関心の高いＩＣＴ機器を効果的に活用していく。
- ・「何のために学ぶのか」「現在の学びが将来どのように生きるのか」をしっかりと伝えていく。

オ 家庭における学習習慣等について

状況

＜家庭における学習習慣等にかかわる質問項目についての肯定的な回答＞

- ・【質問 16】家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 17】学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）。
2時間以上の学習が、全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 18】土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）。
2時間以上の学習が、全国（公立）平均を小学校では下回り、中学校は上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・授業で学習したことを活用する課題を出したり、予習で取り組んだことが生きる授業を設定したりするなど、家庭学習と学校での学習内容を関連付けていく。
- ・キャリア教育を充実させ、将来に向けて興味・関心をもった事柄や、自分の目標に向かって主体的に学習する習慣を身に付ける。
- ・日々の読書や運動の時間も少ない傾向にあるので、家庭での過ごし方について家庭で話し合う機会がもてるよう啓発する。
- ・スマートフォンやゲーム等の使用時間がとても長いので、各家庭でスマートフォンやゲーム等の使い方のルールを作り、見守っていくよう啓発する。

カ 情報教育について

状況

＜情報教育にかかわる質問項目についての肯定的な回答＞

- ・【質問 小 29、中 33】5年生（1・2年生）までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか。
2時間以上が、全国（公立）平均を小学校、中学校ともに上回った。
- ・【質問 小 30、中 34】学習の中でＰＣ、タブレットなどのＩＣＴ機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。
全国（公立）平均を小学校では下回り、中学校で上回った。
- ・【質問 小 31、中 35】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、勉強のために使っていますか。
2時間以上が、全国（公立）平均を小学校では上回り、中学校はほぼ同じだった。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・国が GIGA スクール構想を打ち出して以降、各学校で情報教育を積極的に進め、児童生徒のＩＣＴ機器の活用技能は飛躍的に伸びている。今後、ＩＣＴ機器を用いて、「主体的・対話的で深い学び」につながる学習が展開できるよう工夫していく。
- ・ＡＩドリルを導入し、小学校高学年及び中学校では、タブレットを家庭へ持ち帰り、自分の学習

状況に合わせた学習を行っている。今後も同様に進め、学力向上へとつなげていくとともに、自主的に学習できるようにしていく。

- ・情報モラル、情報リテラシー等のデジタルシティズンシップ教育を行い、ネットトラブルやゲーム依存に陥らないようＩＣＴ機器の適切な利用の仕方について学べる機会を設けていく。

② 学校質問紙調査

ア 校内研修について

状況

＜授業改善、授業力向上のための校内研修を行った割合＞

- ・【質問 22】授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。
- ・【質問 24】個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・今後も、新学習指導要領で目指す「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に向け、令和２年度末より導入されたタブレットの効果的な活用も含めて研修を充実させ、実践していく。
- ・課題となっている「学習意欲」の向上を踏まえて授業改善を行っていく。

イ 生徒指導等について

状況

＜生徒指導等にかかわる質問項目についての肯定的な回答（調査対象児童生徒に対して）＞

- ・【質問 9】授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに下回った。
- ・【質問 11】前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。
全国（公立）平均と小学校はほぼ同じで、中学校では上回った。
- ・【質問 12】前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。
- ・【質問 13】前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか。
全国（公立）平均を小学校・中学校ともに上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・今後も、児童生徒とのふれあいを大切にし、表情や行動など様々な角度から思いや考えをくみ取り、一人一人を大切に生徒指導を行っていく。
- ・教育相談を定期的に行っていくとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用等、校内の教育相談体制を整えていく。
- ・仲間づくりを大切にし、安心して自分の気持ちを伝えることができる支持的風土を培っていく。
- ・集団で生活していく時のルールの大切さについて気づくことができるようにするとともに、児童会・生徒会、学級会などの場を通して、ルールについて児童生徒が主体的に考えていく場を設定する。

ウ 特別支援教育について

状況

＜特別支援教育にかかわる質問項目についての肯定的な回答（調査対象児童生徒に対して）＞

- ・【質問小 66、中 74】学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか。

全国（公立）平均を小学校では下回り、中学校では上回った。

今後の指導で大切にしたいこと

- ・学校生活全体を通して、児童生徒の特性に応じた必要な合理的配慮が行われるよう教職員が情報共有するとともに、体制づくりを行っていく。
- ・個別の教育支援計画を有効に活用し、保護者の願い、本人の願いをもとに、将来を踏まえた教育活動が行えるようにする。

※ 令和5年度全国学力・学習状況調査問題については、国立教育政策研究所のホームページをご参照ください。